

「猫塚家文書諸御用日記」を 花巻市文化財として新たに指定しました

花巻市有形文化財として、新たに猫塚家文書諸御用日記(ねこづかけもんじょしょごようにつき)を指定しました。
平成30年2月8日に開催しました花巻市文化財保護審議会において諮問、答申を受け、平成30年2月28日の教育委員会議で議決されました。この指定に伴い、花巻市指定の有形文化財は124件となります。

指定物件と指定理由

○指定物件: 猫塚家文書諸御用日記

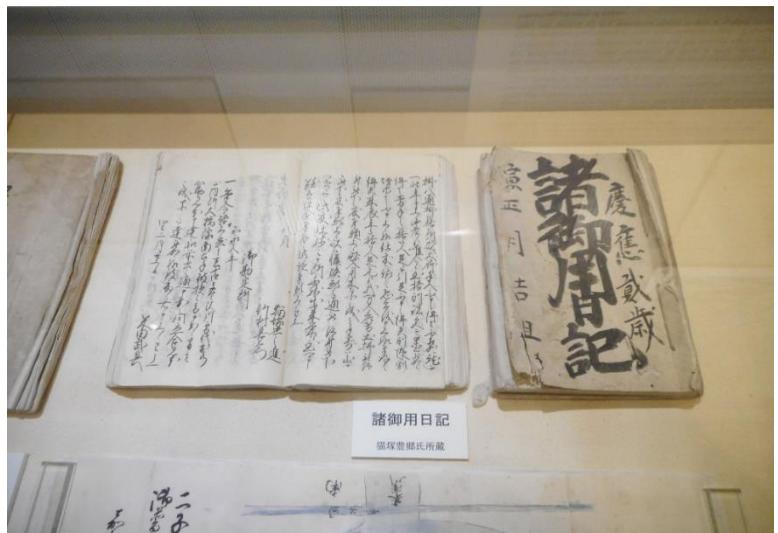
個人が所有する古文書の一部で、明和8年(1771年)から慶応3年(1867年)までの日記及びその他の形式で33冊の記録が現存します。花巻新渡戸記念館が所有者から寄託を受け、33冊のうち2冊を展示し、残りを収蔵庫で保管しています。

○指定理由

猫塚家は江戸時代の初期から花巻周辺に居住し、代々新田開発等に尽力してきた家柄です。特に、5代目・彦四郎(ひこしろう)(嘉永6年(1853)没)及び6代目・忠之進(ただのしん)(明治2年(1869)没)は、花巻給人(きゆうにん)として稗貫・和賀郡内の土木普請工事に数多く携わり、その記録として諸御用日記等を書き記しています。猫塚家が関わった土木普請工事や幕末期の米価の高騰のことなどが詳細に記録されており、当時の花巻地方の状況を知るうえで貴重な資料であり、その保存のため指定したものです。
この猫塚家文書諸御用日記は、同じく花巻地方の新田開発を行った新渡戸家が、猫塚家をはじめとする新田開発の先駆者たちの助言と協力を得て事業を成功させたことから、花巻新渡戸記念館で常設展示されています。
花巻系新渡戸第4分家の4代目新渡戸常豊(つねとよ)が「猫塚家に対しては親類同様に付き合い、ぞんざいな扱いをしないように」と書物に残すなど新渡戸家と猫塚家が親しい関係であったことが分かっています。



猫塚家文書諸御用日記(1部)



花巻新渡戸記念館常設展示